

新地町の復興状況

2015年8月号

新地町の主な復旧・復興事業の様子を写真で紹介しています

住まいの再建(1) 防災集団移転事業(7団地)



防災集団移転団地は、町の中心から約1.5kmの範囲に7団地あります。既に移転した人と間もなく移転する人の計が「95%」近くなりました。



住まいの再建(2) 災害公営住宅7団地・被災高齢者共同住宅1団地(22戸)

災害公営住宅は、防集団地に5地区67戸、その他2地区に36戸を建設し入居中。今年度は新しい新地駅周辺でも建設が始まります。



愛宕東団地 30戸



作田東団地 6戸



作田西団地 9戸



雁小屋団地 27戸



駒ヶ嶺原団地 6戸



被災高齢者共同住宅 22戸



岡団地 14戸



大戸浜団地 11戸

農地復旧・漁業の再開

被災した農地は漂流ガレキの撤去、及び、除塩作業が終わった地区から作付けが始まっています。漁業では、沈下した釣師浜漁港岸壁のかさ上げ工事が終わり、漁の再開に必要な漁具倉庫の建設に着手しています。



元の常磐線西側の区域も作付けを再開



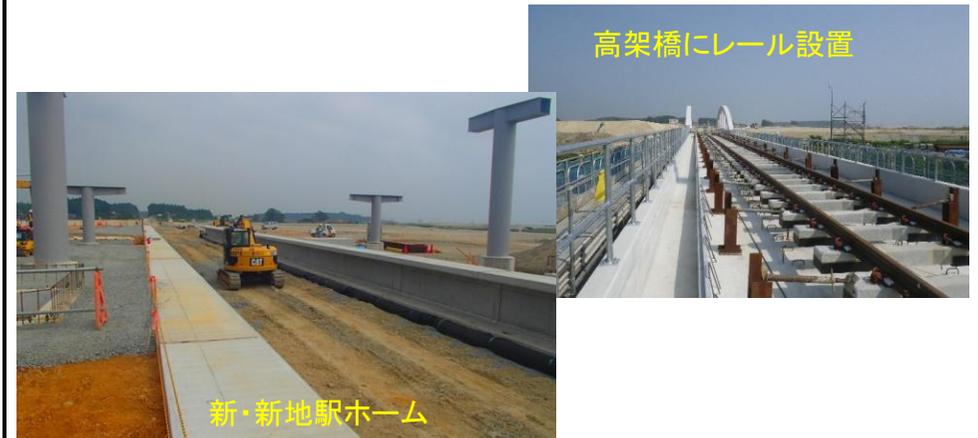
漁港に隣接して漁具倉庫を建設中

新地駅周辺整備、JR常磐線復旧

新地駅周辺で進められている土地区画整理事業は、盛土工事が最終段階です。その区域内を通るJR常磐線の新ルートでは、新地駅のホームと跨線橋の柱が形を現しています。高架橋もほとんどの区間が完成し、レール敷きが進んでいます。



区画整理事業による新地駅周辺の盛土がほぼ完了



高架橋にレール設置

新・新地駅ホーム

道路の復旧

海岸を南北に通っていた県道37号線は、内陸側の元常磐線跡地にルート変更となり、盛土や橋梁の工事が行われています。他の県道や町道も完成した路線から供用されています。



相馬互理線はこのように高くなる。濁川橋梁部



雁小屋団地からのアクセス道路

防潮堤・防災緑地整備

新しい海岸堤防は、以前より1m高くなり工事が進んでいます。その背後には、津波の威力を弱める「防災緑地」を整備中で、盛土が終わった丘には町内外の皆さんにより、「どんぐり」を植樹するプロジェクトが行われています。



釣師浜から北側を望む。白い防潮堤の背後には防災緑地の盛土

海水浴場跡地



防潮堤も完成延長が伸びている